

2021年度 新入社員意識調査 結果

1 はじめに

当社では、OKB大垣共立銀行主催の新入社員研修会の受講者を対象に意識調査を実施している。26回目となる今年度は例年の質問に加えて、新型コロナウイルスがもたらした就職活動への影響や就職活動中の意識変化等について調査した。

2 調査概要

本調査の概要は下表の通りである。

る。なお、昨年(2020年度)調査の回答者数は91名と、新型コロナウイルスの影響により、例年(1,000名程度)に比し大幅に少なくなっている。

3 今年の新入社員像

(1) 就職先の選択基準

「業種・事業内容」
「雰囲気・イメージ」を重視

「入社を決めるにあたって何を重視しましたか(3つまで選択)」と尋ねたところ、1位は「業種・事業内容」

(50.9%)、2位は「雰囲気・イメージ」(37.9%)、いずれも昨年からやや低下した。昨年まで回答割合が上昇していた「勤務地・通勤時間」(25.6%)は▲28.2ポイントと大きく低下した。

一方で、3位の「休日・勤務時間」(30.3%)や「会社の安定性」(25.6%)は昨年から上昇した(図表1)。

男女ともに「勤務地・通勤時間」が大きく低下した。また、女性は男性に比べ「雰囲気・イメージ」、「社員・人事担当者の対応」を重視する傾向が見られた。

- (1) 調査対象：岐阜県・愛知県等の企業164社の新入社員
- (2) 調査時期：2021年3月29日～4月20日
- (3) 調査方法：OKB大垣共立銀行主催の新入社員研修会受講者(635人)に無記名方式で実施
- (4) 有効回答数：277人(有効回答率43.6%)
- (5) 回答者属性

		全体	男性	女性
有効回答者数		277名	139名	138名
平均年齢		21.5歳	21.6歳	21.4歳
最終学歴	高校卒業	29.6%	29.5%	29.7%
	専門学校卒業	11.2%	11.5%	10.9%
	短期大学卒業	8.7%	5.8%	11.6%
	4年制大学卒業	46.6%	46.8%	46.4%
	その他	4.0%	6.5%	1.4%
居住地	岐阜県	58.1%	58.3%	58.0%
	愛知県	32.1%	33.1%	31.2%
	三重県	1.4%	1.4%	1.4%
	滋賀県	3.6%	4.3%	2.9%
	その他	4.7%	2.9%	6.5%
業種	建設業	14.1%	20.1%	8.0%
	製造業	29.2%	31.7%	26.8%
	卸売業、小売業	13.3%	11.6%	15.2%
	医療・福祉	11.2%	5.0%	17.4%
	サービス業	6.5%	3.6%	9.4%
	その他	25.7%	28.0%	23.2%

(*) 数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある(以下同じ)。その他には不明を含む。

(2) 将来就きたい地位

「スペシャリスト志向」がトップ、
次いで
「管理職志向」「一般社員志向」

「あなたは将来どんな地位に就きたいですか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、1位は「特殊能力・技能のあるスペシャリスト社員(以下:スペシャリスト志向)」で36.1%、次いで「部長・課長・主任などの肩書のある管理職(以下、管理職志向)」、「一般社員のまがよい(以下:一般社員志向)」がともに18.4%で2位となった(図表2)。

男女別に見ると、男性では、「スペシャリスト志向」(36.0%)の上昇傾向が続く一方、「管理職志向」(25.9%)は最近3年間で▲21.0ポイントと大きく低下している。

女性は、「一般社員志向」が低下、「管理職志向」が上昇している。

(3) 上司・先輩との人間関係

「ほどほど派」が半数超

「上司・先輩との人間関係はどのように考えていますか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、「義理を欠かない程度(以下:ほどほど派)」が58.5%と昨年からやや低下、「プライベートも含め積極的に(以下:積極派)」(26.7%)はほぼ横ばいとなった(図表3)。

2015年度に「ほどほど派」が「積極派」を上回ったのちその差は拡大し、過去2年では「ほどほど派」の回答割合は「積極派」の2倍超となっている。

男女別に見ると、男性は「ほどほど派」(57.6%)、「積極派」(25.9%)となり、拡大傾向が続いていた両者の差はやや縮小した。

一方、女性は13年度から「ほどほど派」のゆるやかな上昇傾向が続いており、今回も「積極派」との差は拡大した。

(4) 入社の際の不安

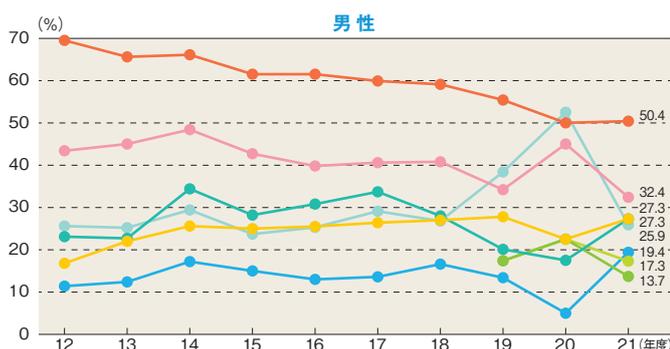
「業界知識・業務内容」がトップ

「入社にあたって不安に思うことは何ですか(3つまで選択)」と尋ねたところ、1位は「業界知識・業務内容」(60.6%)、2位は「上司・先輩との人間関係」(59.9%)、3位は「社会常識・マナー」(48.7%)となった(図表4)。

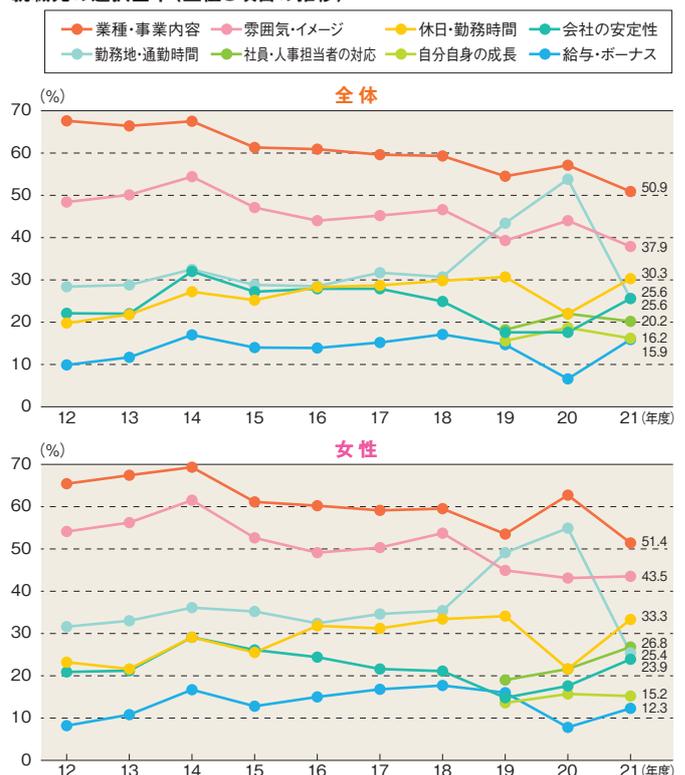
図表1 就職先の選択基準と推移 ※複数回答

就職先の選択基準(全体、14項目)

順位	重視した項目	回答割合	前年比
1	業種・事業内容	50.9%	▲6.2
2	雰囲気・イメージ	37.9%	▲6.1
3	休日・勤務時間	30.3%	8.3
4	会社の安定性	25.6%	8.0
5	勤務地・通勤時間	25.6%	▲28.2
6	社員・人事担当者の対応	20.2%	▲1.8
7	自分自身の成長	16.2%	▲2.5
8	給与・ボーナス	15.9%	9.3
9	会社の将来性	10.8%	4.2
10	福利厚生	10.8%	▲0.2
11	親または学校の推薦	7.9%	▲3.1
12	会社の規模	7.6%	1.0
13	会社の知名度	2.9%	0.7
14	その他	1.4%	0.3



就職先の選択基準(上位8項目の推移)





上位3項目は1996年度の調査開始以降変わっておらず、男女別に見ても同様となっている。年代は変わっても、「業界知識・業務内容」、「上司・先輩との人間関係」、「社会常識・マナー」の3項目が、新入社員が入社の際に不安を感じる点として定着していることがうかがえる。また、今回調査ではこの上位3項目の回答率がいずれも上昇しており、これ

らの項目に対する新入社員の不安がやや高まっている様子が見える。

また、「プライベートとの両立」が昨年に比べ上昇した。就職先の選定基準では、「休日・勤務時間」の回答割合が昨年調査から増加しており、本設問においても、新入社員の「プライベートの時間を大切にしたい」という意向がうかがえる。

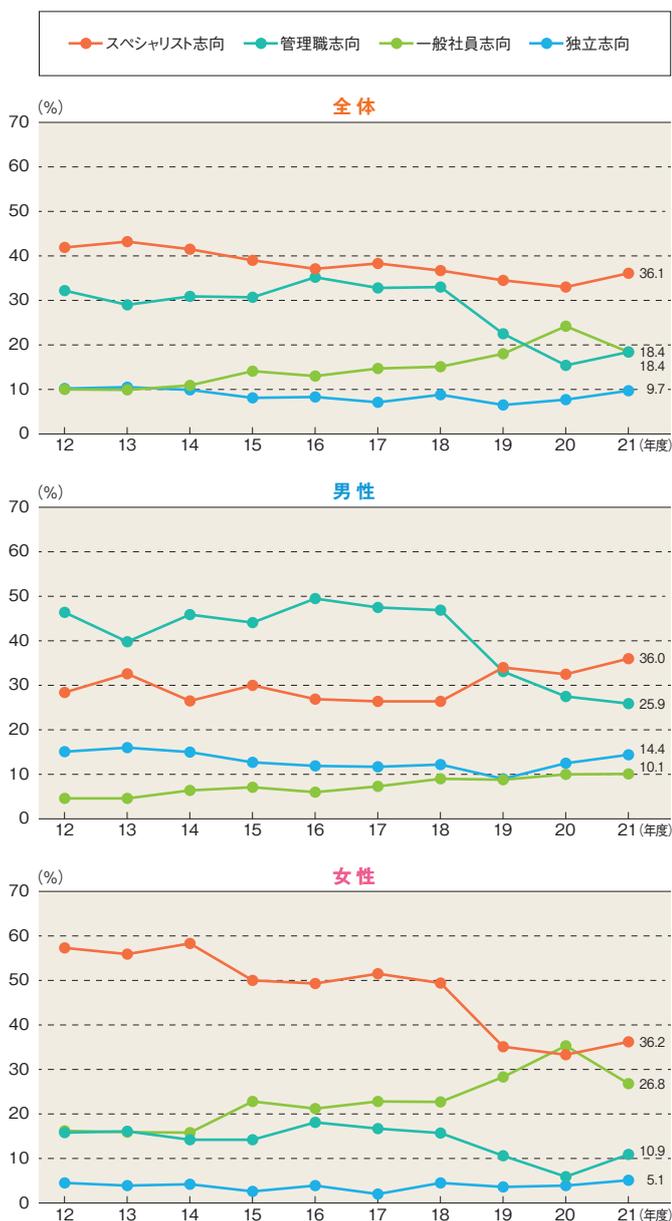
(5) 初給与の使い道

「預金する」がトップ、次いで「家族に感謝」

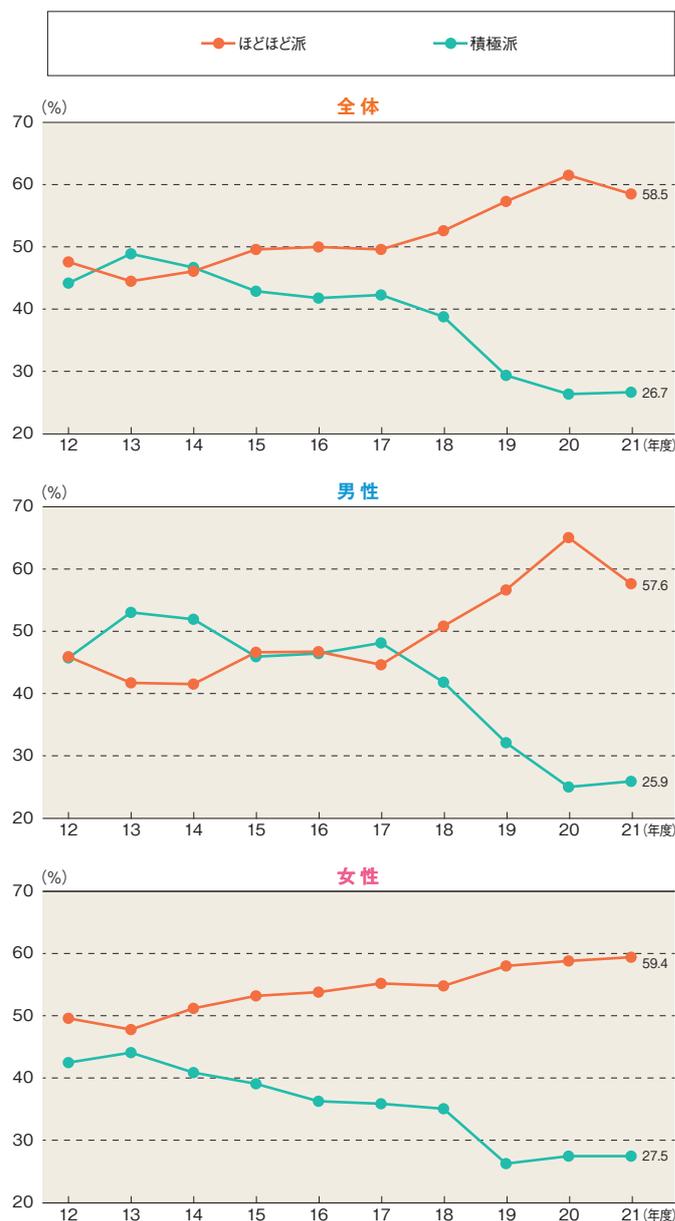
「初給与はどのように使いますか(2つまで選択)」と尋ねたところ、1位は「預金する」(44.4%)で、2007年度以来のトップとなった。

一方で、2位の「家族に贈り物をしたり、食事をごちそうする(以下:家

図表2 将来就きたい地位(わからない、その他を除いた項目の推移)

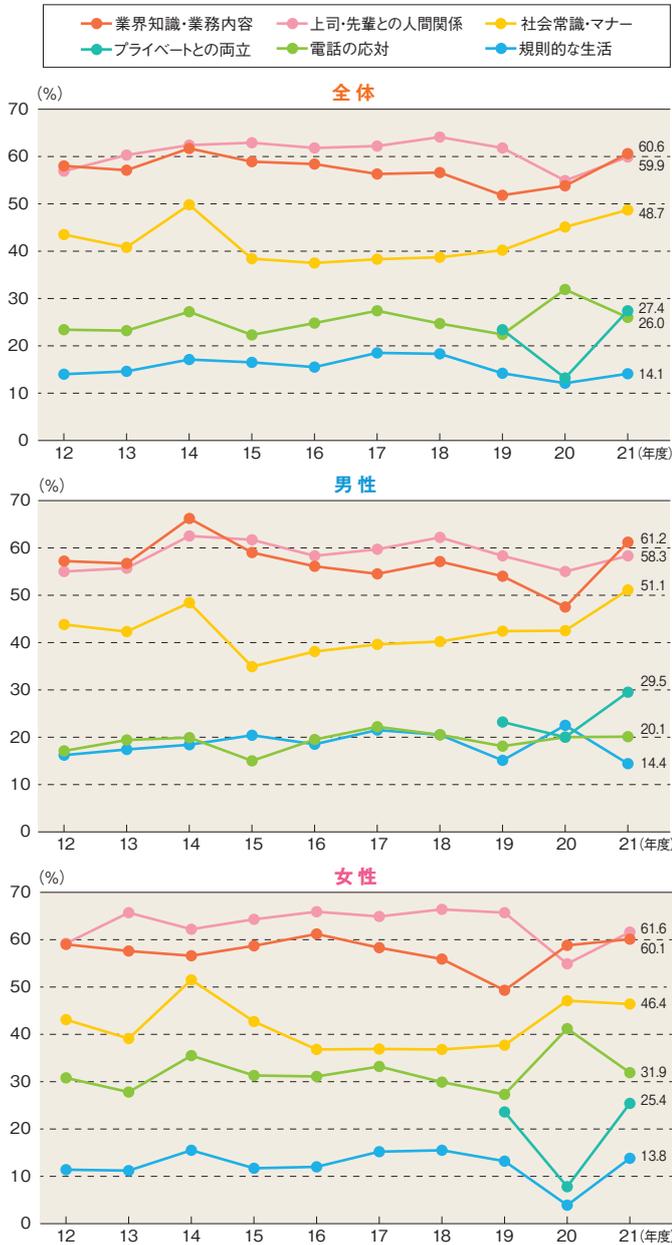


図表3 上司・先輩との人間関係(上位2項目の推移)



図表4 入社の際の不安 ※複数回答

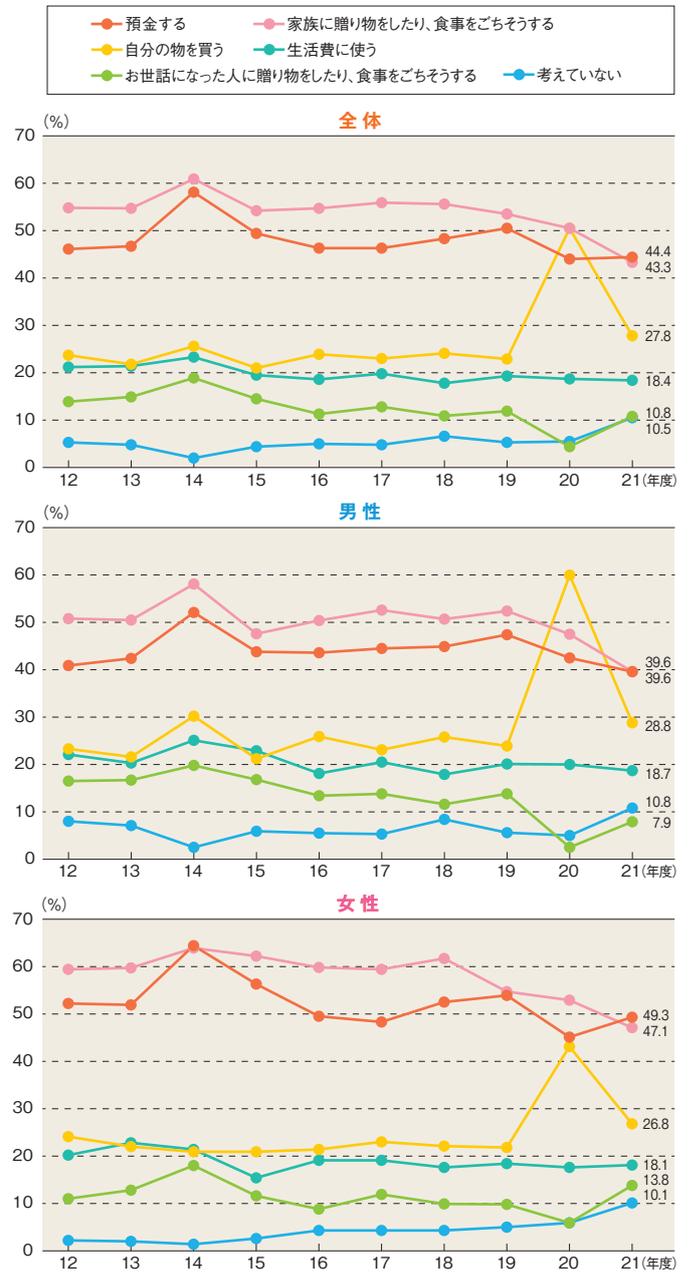
入社の際の不安(上位6項目の推移)



入社の際の不安(全体、11項目)

順位	重視した項目	回答割合	前年比
1	業界知識・業務内容	60.6%	6.8
2	上司・先輩との人間関係	59.9%	5.0
3	社会常識・マナー	48.7%	3.6
4	プライベートとの両立	27.4%	14.2
5	電話の応対	26.0%	▲5.9
6	規則的な生活	14.1%	2.0
7	同僚との人間関係	11.2%	▲2.0
8	パソコン・オフィス機器の使い方	11.2%	▲7.5
9	機械の使い方	9.4%	▲10.4
10	健康	8.7%	▲0.1
11	その他	3.6%	3.6

図表5 初給与の使い道(上位6項目の推移) ※複数回答



族に感謝)」(43.3%)は緩やかな低下を続けている。なお、これら2項目の回答率が突出して高い(図表5)。

昨年を除き、男女ともに「家族に感謝」のトップが続いていたが、今回調査では、男性は「預金する」も同率でトップに、女性では僅差であるが「預金する」が逆転しトップとなった。

また、回答者数が少なかった昨年調査で回答率が急伸した「自分の物を買う」は、今回調査でも2019年度以前に比べ高い傾向にあった。

(6)理想の上司

明石家さんまが3回連続でトップ、2位は水ト麻美

今年度の新入社員に、「あなたの理想の上司とはどんなタイプですか。著名人・有名人に例えて1人だけお答え下さい(自由回答)」と尋ねたところ、男女ともに安定した支持を得た「明石家さんま」が、2018年度、2019年度に続きトップとなった(図表

6)(2020年度は回答者数が少なかったため集計していない)。

全体ランキングでトップの明石家さんまは、「明るく、時に厳しく物事を教えてくれそう」、「その人の良さを引き出してくれる」、「包容力と決断力がある」といった意見が寄せられた。バラエティ番組の司会などの活躍を通じた、明るい雰囲気づくりや若手芸能人への対応などから、新入社員の好感を得ており、頼れる上司としてのイメージが定着していると思われる。

全体ランキングでは、水ト麻美が2位と19年度の5位から順位を上げた。「明るく誰にでも同じように接している」、「笑顔で親しみやすい」、「仕事もでき、頼もしい。やさしさ厳しさを両立できそう」など女性の支持を多く集め、女性ランキングでは2回連続で1位となった。

男女別ランキングでは、男性が選んだトップ3は1位が明石家さんま、2位がイチロー、3位は同率で松岡修

造・阿部寛・松本人志、女性が選んだトップ3は1位が水ト麻美、2位が同率で天海祐希、内村光良となった。

(7)小括

今回の調査において、就職先の選択基準では、例年通り、「業種・事業内容」、「雰囲気・イメージ」が重視されている。ただ、新型コロナウイルスの影響によるテレワークの広がりもあり、男女ともに「勤務地・通勤時間」が前年比で大きく低下した。一方で、「会社の安定性」、「給与・ボーナス」、「会社の将来性」が増加しており、新型コロナウイルスの影響で不安定な状況が続くなか、就職先選定において仕事・生活の安定を重視しているものと思われる。

将来就きたい地位では、「スペシャリスト志向」がトップをキープした。男性では、「スペシャリスト志向」、「独立志向」の割合が徐々に上昇する一方、「管理職志向」が3年間で大きく低下している。女性では、「ス

図表6 理想の上司 (敬称略)

	順位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2021年度
全体	1	松岡修造	天海祐希	明石家さんま	明石家さんま	明石家さんま
	2	明石家さんま	明石家さんま	松岡修造	イチロー	水ト麻美
	3	天海祐希	松岡修造	天海祐希	松岡修造	内村光良 天海祐希
	4	所ジョージ	所ジョージ	内村光良	内村光良	
	5	イチロー	水ト麻美	イチロー	水ト麻美	イチロー
男性新入社員	1	松岡修造	明石家さんま	明石家さんま	イチロー	明石家さんま
	2	明石家さんま	松岡修造	松岡修造	明石家さんま	イチロー
	3	イチロー	所ジョージ	イチロー	松岡修造	松岡修造 阿部寛 松本人志
	4	所ジョージ	イチロー	松本人志	内村光良	
	5	タモリ	松本人志	北野武	所ジョージ	
女性新入社員	1	天海祐希	天海祐希	天海祐希	水ト麻美	水ト麻美
	2	明石家さんま	水ト麻美	明石家さんま	明石家さんま	天海祐希 内村光良
	3	松岡修造	明石家さんま	水ト麻美	松岡修造	
	4	マツコデラックス 篠原涼子	松岡修造	松岡修造	天海祐希	明石家さんま
	5		内村光良	内村光良	内村光良	櫻井翔

(*) 網掛けは2021年度全体で回答率が高かった上位3位までの人。2020年度については新型コロナウイルスの影響で回答数が少なかったため集計していない。

ペシャリスト志向」がトップをキープしている。一方で、長期で見ると「一般社員志向」の上昇が続いている。上位2項目に比し、「管理職志向」は低位で推移している。

上司・先輩との人間関係では、「ほどほど派」が男女ともに6割弱を占めている。職場の人間関係では適度な距離感を保ちつつ、うまく付き合いたいという意向が大勢として定

着しつつある。

新入社員が入社の際に不安を感じる点では、「業界知識・業務内容」、「上司・先輩との人間関係」や「社会常識・マナー」が定着している。今回調査ではこの上位3項目の回答率がいずれも上昇しており、これらの項目に対する新入社員の不安が高まっている様子が見えてくる。

いまだ新型コロナウイルスの影響

で仕事面・生活面で制限が多い中、定例で行っている本調査においても影響が出ていることが読み取れた。

次項より、今回ピックとして調査した「新型コロナウイルスによる就職活動・就業の意識変化」でどのような影響があったかを見ていきたい。

4 新型コロナウイルスによる就職活動・就業意識への影響

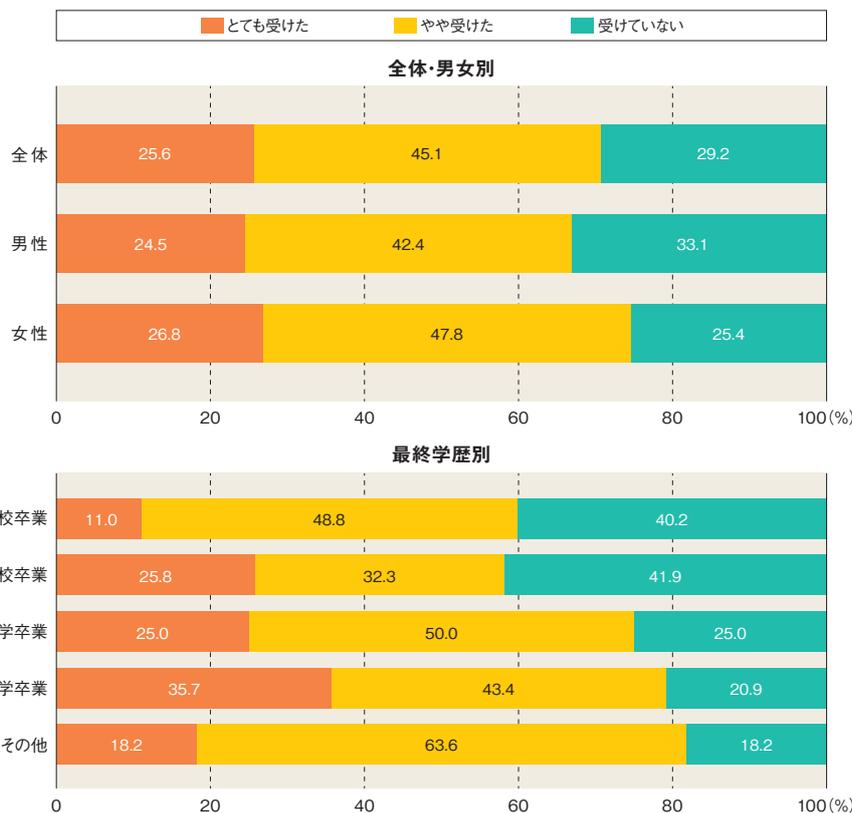
(1) 就職活動への影響

7割超の新入社員「就職活動で影響を受けた」

「就職活動において新型コロナの影響を受けましたか」と尋ねたところ、「とても受けた」が25.6%、「やや受けた」が45.1%、合わせて7割超の新入社員が就職活動において新型コロナの影響を受けたと回答した。男女別にみると、女性の方が「とても受けた」、「やや受けた」の割合がやや大きかった。また、「とても受けた」の回答割合を最終学歴別にみると、高校卒業では11.0%となった一方で、4年制大学卒業は35.7%と大きな差がみられた。一般に、高校新卒者は学校に届く求人票を中心に企業情報を収集するが、大学新卒者は個々人で業種や地域を選定しながら広く情報を収集する。こうした活動の違いが影響の差につながっているものと思われる(図表7)。

自由意見では、会社見学・説明会の中止といった情報収集への影響を指摘したコメントや、採用の中止・採用枠の減少といった募集枠への影響に関するコメントがあった。また、

図表7 新型コロナの就職活動への影響



コメント	企業情報の収集
	○会社・工場見学ができなかった
	○合同説明会・学内説明会・会社説明会が中止になり、企業や企業情報を探るのが大変だった
	募集枠
	○採用枠・求人票が減っていた
	○志望企業が採用を中止した
オンライン面接	
○時間の短縮につながった	
○実際に会うより話しやすい	
○表情が分からないので、実際に会う方が話しやすい	
○オンライン面接が今後も主流になると感じた	

オンライン面接については、時短や効率化につながったといった意見が複数みられた。オンライン面接でのコミュニケーションについては、「実際に会うより話しやすい」といったポジティブなコメントが多かった一方で、「表情が分からないので、実際に会う方が話しやすい」といったコメントもあった。ただ、今後の動向については、「オンライン面接が今後も主流になると感じた」といったコメントもみられた。

(2) 業種・職種・勤務地への影響

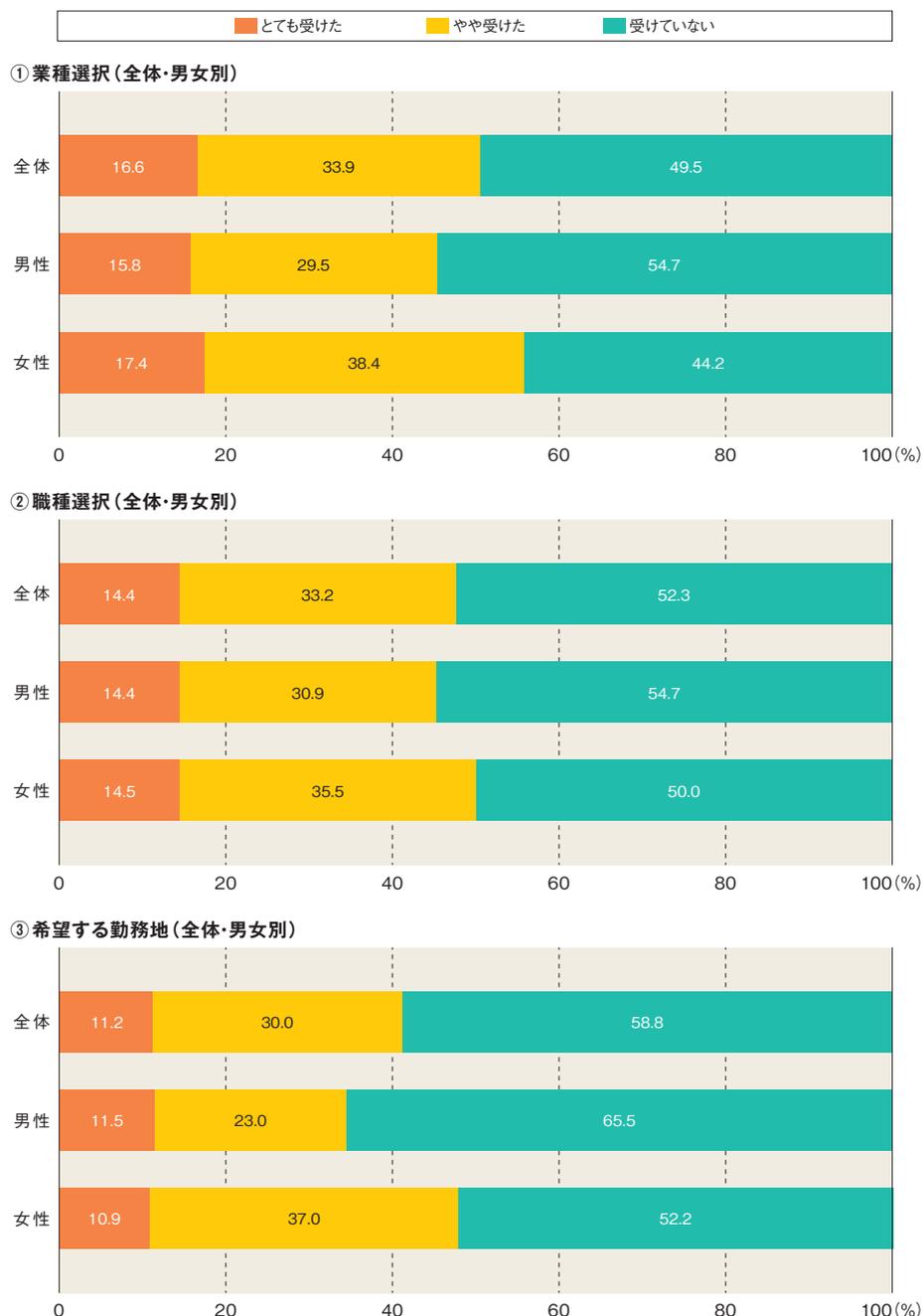
業種選択・職種選択でほぼ半数、希望する勤務地では4割超が影響を受けたと回答

業種・職種の選択、希望する勤務地への影響について尋ねたところ、「とても受けた」、「やや受けた」の合計が、業種選択では50.5%とほぼ半数、職種選択では47.6%と半数近くとなった。希望する勤務地についても、同割合は41.2%となっている。

男女別にみると、業種・職種・勤務地の選択のいずれにおいても、女性の方が「とても受けた」、「やや受けた」の回答割合の合計がやや大きかった(図表8)。

また、自由意見では「国際系の業種は厳しかった」、「コロナの影響で職種を絞った」といったコメントもあり、多くは制限といった形で業種・職種選択に影響があったことが確認できる。また、前述した「就職先の選択基準」の設定問においては、「勤務地・通勤時間」が昨年から大きく低下していた。「オンライン面接が多く、遠方に本社を置く会社へ進もうと思うきっかけ

図表8 業種選択、職種選択、希望する勤務地への影響



コメント	業種選択
	○ 国際系の業種は厳しかった
	○ アパレル系はコロナの影響が強かった
	○ イベント関連は新卒採用が少なかった
	職種選択
	○ コロナの影響で職種を絞った
	○ コロナ対応が求められる職種では、実習が中止になったり、選考がストップすることもあった
	希望する勤務地
	○ 大阪等も選択肢にあったが、コロナを警戒して選択肢から外した
○ オンライン面接が多く、遠方に本社を置く会社へ進もうと思うきっかけが持てた	
○ テレワークに取り組む企業を選択した	

が持てた」、「テレワークに取り組む企業を選択した」といったコメントもあり、コロナ禍でオンライン面接やテレワークが拡大したことが、希望する勤務地に影響を与えたものと考えられる。

(3) 就職活動中の意識変化

「地元志向が高まった」が4割、「就活中も移動自粛」が半数超、「企業の対策・影響を意識」は6割超

「新型コロナウイルスの影響による就職活動中の意識変化」について尋ねたと

ころ、「地元志向が強まった」では39.0%が「あてはまる」と回答。新型コロナは、就職時の地元回帰に一定の影響を与えていることがうかがえる。

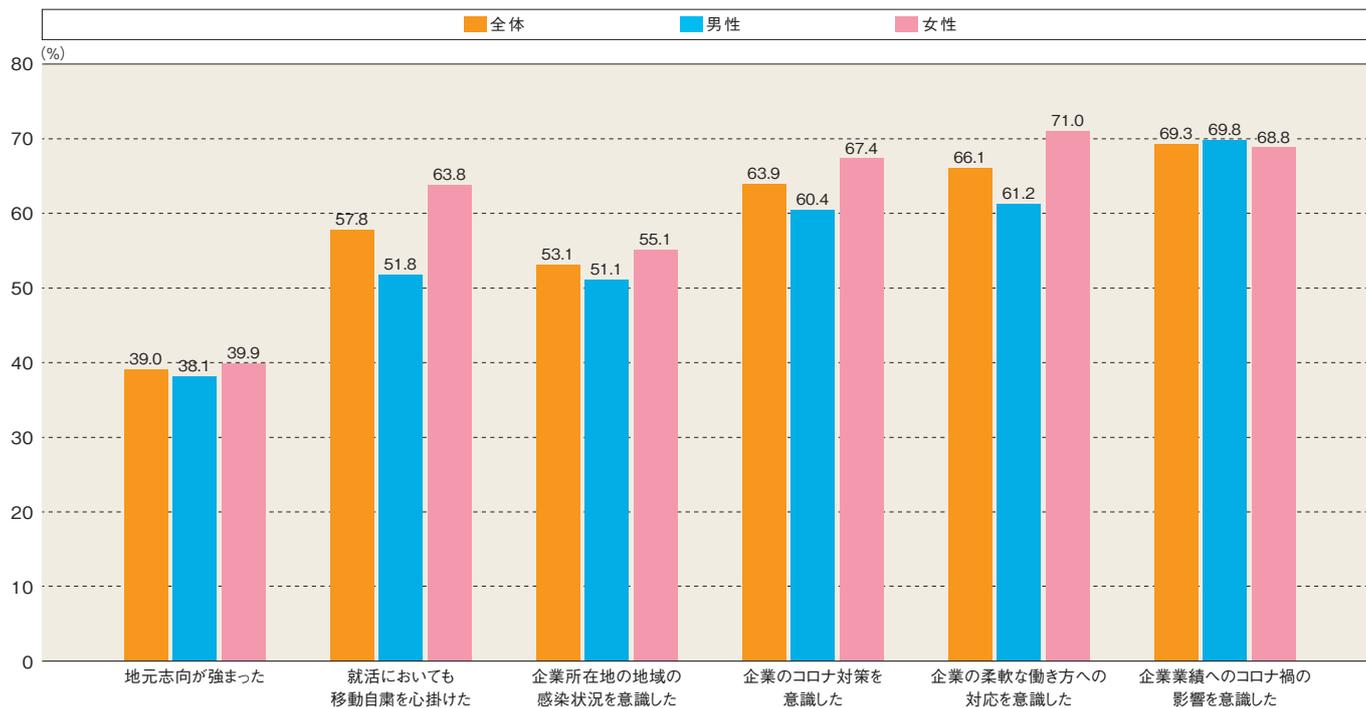
就活中の移動や地域については、「就活においても移動自粛を心掛けた」で57.8%、「企業所在地の地域の感染状況を意識した」で53.1%が「あてはまる」と回答。就職活動中の移動や就職活動の対象地域を限定したケースが一定程度はあったものと考えられる。

また、企業の対策や業績への影

響については、「企業のコロナ対策を意識した」が63.9%、「企業の柔軟な働き方への対応を意識した」が66.1%、「企業業績へのコロナ禍の影響を意識した」が69.3%となった。新型コロナが猛威を振るうなか、就職先の選定基準として、コロナ対策や働き方への対応、業績への影響に関心が集まっていることがうかがえる(図表9)。

男女別にみると、就活中の移動自粛、企業のコロナ対策、柔軟な働き方への対応の項目で、女性の方が

図表9 新型コロナウイルスの影響による就職活動中の意識変化



コ メ ン ト	就職の地元回帰
	<input type="radio"/> 地元就職した
	<input type="radio"/> わざわざ都会で就職する必要がないと考えようになった
	企業のコロナ対策、柔軟な働き方への対応
	<input type="radio"/> 特殊な環境下でスムーズな対応をしている企業に将来性や安心感があると感じた
	<input type="radio"/> 働き方が変わる中、時代の変化に企業がどう対応しているか考えるようになった
	企業業績への影響
	<input type="radio"/> 浮き沈みが企業によってかなり違う
	<input type="radio"/> コロナ禍でも安定している企業を選んだ
	<input type="radio"/> コロナ禍でも新事業の立ち上げや、業績を上げている企業に目が向くようになった

意識変化の割合が大きかった。

自由意見でも、「地元就職した」、「わざわざ都会で就職する必要がないと考えるようになった」といった地元回帰につながるコメントが見られた。

また、「特殊な環境下でスムーズな対応をしている企業に将来性や安心感があると感じた」、「浮き沈みが企業によってかなり違う」、「コロナ禍でも安定している企業を選んだ」、「コロナ禍でも新事業の立ち上げや、業績を上げている企業に目が向くようになった」といった企業の対応や業績に関するコメント、「働き方が変わる中、時代の変化に企業がどう対応しているか考えるようになった」といった柔軟な働き方への企業の対応に関するコメントもあった。就職先の選定にあたり、従来の面接時の対応などに加え、コロナ禍への対応を通じ、その企業を分析している様子が見られる。

(4) 新型コロナウイルス感染拡大による不安

通勤・勤務中の感染、収入やライフプラン、勤務先や業務への影響について半数超が不安を感じている

各項目について、「新型コロナウイルス感染拡大でどの程度不安を感じていますか」と尋ねたところ、「とても感じる」、「まあ感じる」を合わせた回答割合は、いずれの項目も5~6割となり項目間での大きな差はみられなかった。最も高いのは「勤務先の業績への影響」で62.5%となった。通勤や勤務中の感染リスク、収入への影響、

キャリアプラン・ライフプランへの影響、自身の業務や職場の人間関係など幅広い範囲で不安を感じていることが確認できた(図表10)。

また、男女別にみると、「通勤や勤務中の感染」、「自分や家族の収入への影響」、「自分のライフプランへの影響」、「上司・同僚との人間関係の構築」といった項目において、女性の方が男性に比べ不安を感じるという回答割合が高かった。前述の就職活動の影響や意識の変化についても、全般的に女性の方が実感している傾向にあったが、不安感においても同様の傾向がみられた。

(5) コロナ禍、コロナ終息後で利用したい働き方

およそ半数がコロナ終息後も在宅勤務・フレックスタイム・短時間勤務制度を利用したい

コロナ禍・コロナ終息後において、それぞれの働き方を利用したいかどうか尋ねた。

コロナ禍において、「テレワーク(在宅勤務)」、「フレックスタイム(時差出勤等)」、「短時間勤務制度」で「利用したい」の回答が半数を超えた。「施設利用型テレワーク」、「副業・兼業」については、3割程度が「利用したい」と回答しており、「利用したくない」の回答よりもやや多い程度となっている(図表11)。

また、コロナ終息後においても、「テレワーク(在宅勤務)」、「フレックスタイム(時差出勤等)」、「短時間勤務制度」について「利用したい」の回答は半数を超えた。「テレワーク

やりモートが主流になると思う」というコメントもあり、新入社員の多くはコロナ禍で多様化した働き方が、コロナ終息後もスタンダードになると考えているようだ。

(6) その他の行動・意識の変化に関するコメント

「その他、あなたが感じた新型コロナウイルスによる影響や意識の変化」について自由記述を求めたところ、次のようなコメントがあった(図表12)。

① 就職活動での行動・意識の変化

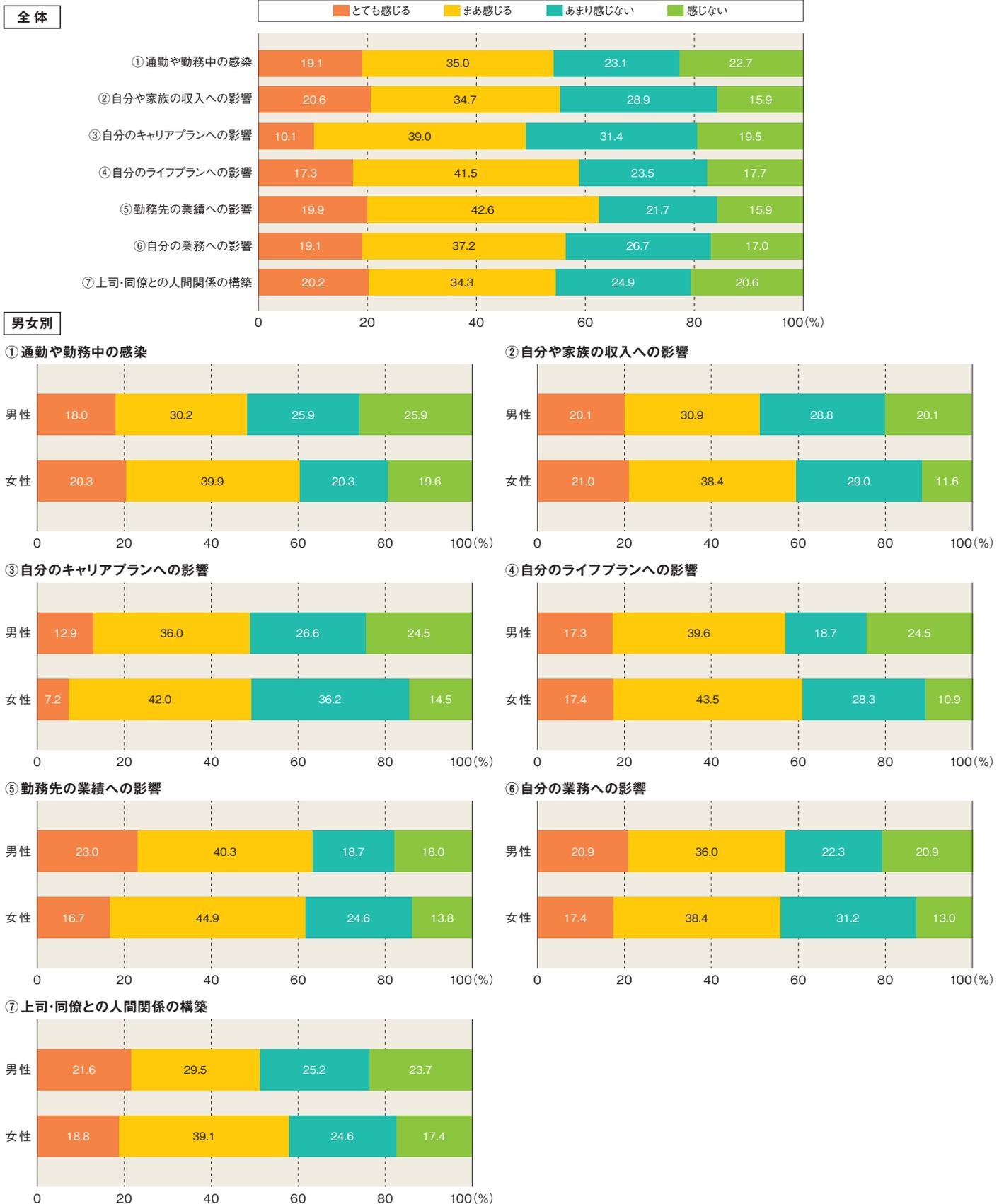
「例年とは違うという事が動きづかった」、「急激な変化に対応するには準備が大切だと感じた」といったコメントが複数あった。新型コロナの影響により、説明会中止、オンライン面接、選考停止など例年と違った事態に直面するなか、イレギュラーな事態に対応するには準備が必要であるということ、コロナ禍での就職活動で実感したものと思われる。

また、「コロナ禍にもかかわらず採用してくれた企業への感謝の気持ちが強まった」とのコメントがあった。多くの新入社員が就職活動を通じ、企業への新型コロナの影響を目の当たりにし、採用自体が厳しいことも実感している。そうした環境下での企業から採用通知は、より喜びを感じるものであったのだろう。

② 生活面での行動・意識の変化

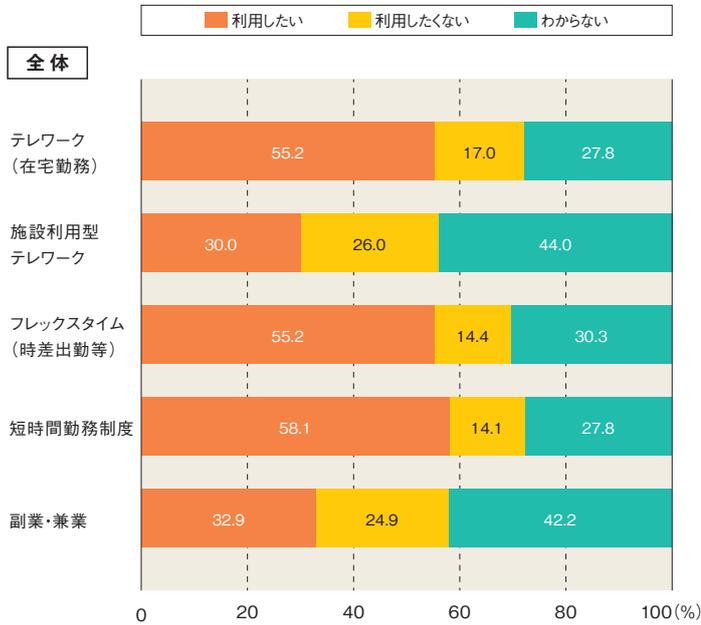
「感染対策を徹底した」、「感染して会社に迷惑をかけないように意識して行動した」といったコメントが複数あった。ほかにも「行動に厳しい目を感じる」といったコメントもあり、コロナ禍における就職活動は、社会人とし

図表10 新型コロナ感染拡大でどの程度不安を感じているか

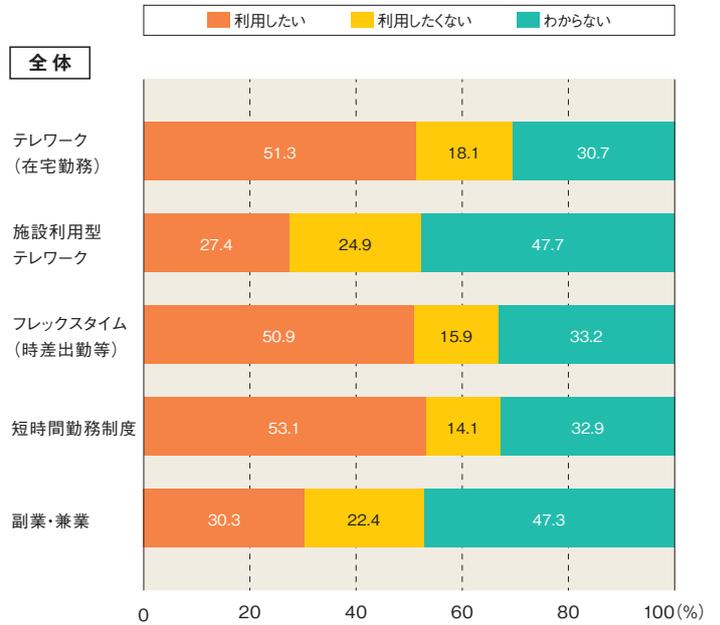


図表11 利用したい働き方

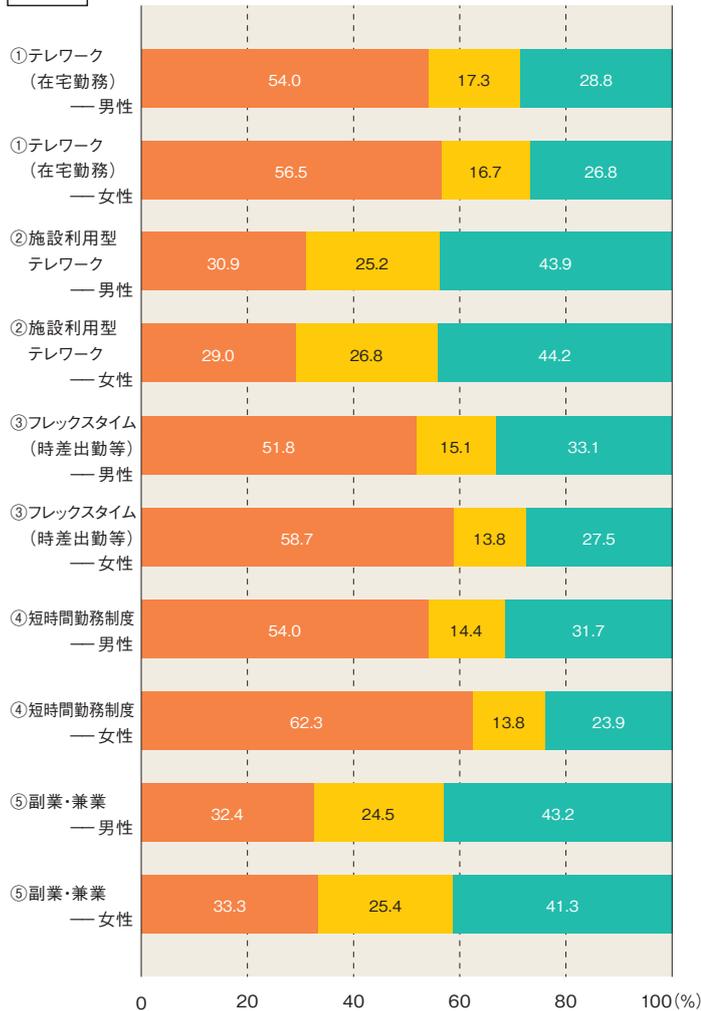
① コロナ禍



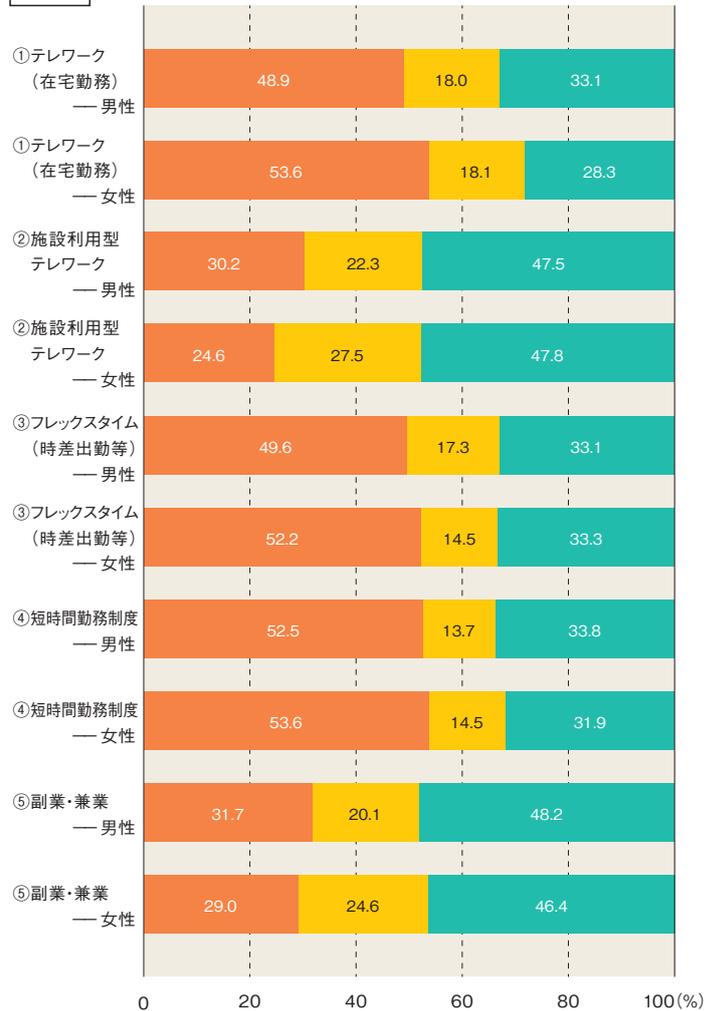
② コロナ終息後



男女別



男女別



での自覚や周囲への影響をより意識することにつながったものと思われる。

また、長引く自粛生活の中で、「自粛で忍耐力がついた」というポジティブなコメントがあった一方で、「自粛で外出が減り、やや内向きになった気がする」といったネガティブなコメントも見られた。

③コミュニケーションについて

「コミュニケーションが減り、人との距離感を感じる」、「友人との就活中の情報交換がしづらかった」といったコミュニケーションに関するネガティブなコメントが複数あった。コロナ以前のような対面のコミュニケーションが減り、既存の人間関係や情報交換にも大きな影響があったものと思われる。

また、「会話が減り、親睦を深めるのが難しい」、「マスクで顔が覚えられない、表情が分からない」といったコメントも散見された。コミュニケーションが減る要因として、マスク着用や黙食、懇親会の自粛、在宅勤務な

どが挙げられており、就職活動、面接、入社といった新たな環境で人間関係を構築する際に、さまざまな場面でコミュニケーションが不十分になっていると感じている様子が見えがえた。

(7)小括

新入社員のおよそ7割が就職活動において、新型コロナの影響を受けていた。具体的には、業種・職種選択でおよそ半数、勤務地の選択でも4割超が影響を受けたと回答している。就活中のコロナの影響による意識変化においても、企業のコロナ対策や業績への影響を意識したとの回答が6割超となったほか、「地元志向が高まった」が4割、「就活中においても移動を自粛した」が半数超となるなど、意識面での変化が業種・職種や勤務地の選択に一定の影響を与えたものと考えられる。

また、新型コロナ感染拡大により、通勤・勤務中の感染、収入やライフ

プラン、勤務先や業務への影響について半数超が不安を感じているということも確認できた。

コロナ禍で多様な働き方が広がるなか、およそ半数が在宅勤務、フレックスタイム、短時間勤務制度を利用したいと回答、当地域の新入社員も多様な働き方への関心が高いことが確認できた。それぞれの「利用したい」の回答割合は、コロナ終息後においてもほぼ同率となっており、新入社員の多くはコロナ禍で多様化した働き方がスタンダードになり、さらに、その働き方を利用したいと考えているようだ。

アンケート結果やコメントにもみられる通り、新入社員が就職活動への影響や変化に対応すべく試行錯誤してきたことがうかがえる。また、自身が特殊な環境下での対応を迫られたことにより、企業がどう対応しているかという点に注目していることが分かった。

本アンケートは、新型コロナの影響や変化に対応し、当地域の企業に就職を果たした新入社員を対象としたものである。厚生労働省と文部科学省による令和3年3月大学等卒業者の就職内定状況は4月1日時点で96.0%と前年同期比で2.0ポイント低下しており、就職活動全般への新型コロナの影響はより大きい可能性もある。

いまだ感染状況に落ち着きはみられない。今後就職活動がどのように変化していくか、今回の結果を念頭に置き注視していきたい。

(2021.6.4)

OKB総研 調査部 中澤 大輔

図表12 「その他、あなたが感じた新型コロナによる影響や意識の変化」へのコメント (一部抜粋)

コメント	就職活動での行動・意識の変化について
	<input type="radio"/> 例年とは違うという事が動きづらかった <input type="radio"/> 大企業の選考が進まず、中小企業を選んだ人もいると感じた <input type="radio"/> 急激な変化に対応するには準備が大切だと感じた <input type="radio"/> コロナ禍にもかかわらず採用してくれた企業への感謝の気持ちが強まった
	生活面での行動・意識の変化について
	<input type="radio"/> 感染対策を徹底した <input type="radio"/> 感染して会社に迷惑をかけないよう意識して行動した <input type="radio"/> 健康管理により気を使った <input type="radio"/> 自粛で忍耐力がついた <input type="radio"/> 自粛で外出が減り、やや内向きになった気がする <input type="radio"/> 行動に厳しい目を感じる
	コミュニケーションについて
	<input type="radio"/> コミュニケーションが減り、人との距離感を感じる <input type="radio"/> 友人との就活中の情報交換がしづらかった <input type="radio"/> 会話が減り、親睦を深めるのが難しい <input type="radio"/> マスクで顔が覚えられない、表情が分からない